

高田冬彦 個展『Cut Pieces』開催のご案内

展覧会名：高田 冬彦 『Cut Pieces』

会 期：2023年9月9日（土） - 10月8日（日）

オープニングレセプション：9月9日（土） 18:00-20:00 *作家が在廊いたします

開廊時間：12:00-19:00（日曜 -17:00）

定休日：月・火・祝日

会 場：WAITINGROOM（〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル1F）

WAITINGROOM（東京）では、2023年9月9日（土）から10月8日（日）まで、高田冬彦の個展『Cut Pieces』を開催いたします。高田は、おとぎ話や神話を下敷きに、ジェンダー、セクシュアリティ、孤独、ナルシズムやトラウマといったテーマを横断的に扱った映像作品を制作しています。本展では、最新作『Cut Suits』に加え、昨年末アメリカで開催されたアートフェア「NADA Miami 2022」で話題を集めた『The Butterfly Dream』を日本初披露するほか、近作の『Dangling Training』も発表いたします。近年の高田は、男性身体をモチーフにしつつ、そのイメージを遊戯的な発想で揺るがせていくような作品群に取り組んでいますが、今回の個展でもそうした興味を継続・展開させています。特に、本展のための最新作『Cut Suits』は、複数の男性モデルが演じるパフォーマンスをとらえた作品で、高田のアイデアは6名の演者の手に委ねられており、それを規模の大きな撮影手法で記録しています。また、実際に使用した小道具の展示に加え、作中のイメージが展示空間まで広がったようなインスタレーション的表現など、より空間的、彫刻的なアプローチに挑戦いたします。



『Cut Suits』2023年（ビデオスチル）

作家・高田冬彦について

1987年広島県生まれ。2017年東京藝術大学大学院美術研究科油画研究領域 博士後期過程 修了。現在は千葉県を拠点に活動中。近年の主な展覧会に、2022年グループ展『Storymakers in Contemporary Japanese Art』（The Japan Foundation Sydney/シドニー、オーストラリア）、2021年個展『LOVE PHANTOM 2』（WAITINGROOM/東京）、グループ展『Lost in Translation』（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA/京都）、2020年グループ展『When It Waxes and Wanes』（VBKÖ/ウィーン、オーストラリア）、2019年個展『MAMスクリーン011: 高田冬彦』（森美術館/東京）、2018年個展『Dream Catcher』（Alternative Space CORE/広島）、2017年個展『LOVE PHANTOM』（Art Center Ongoing/東京）、2016年個展『STORYTELLING』（児玉画廊/東京）、グループ展『MOTアニュアル2016 キセイノセイキ』（東京都現代美術館/東京）などが挙げられます。

↓<次頁> 展覧会について

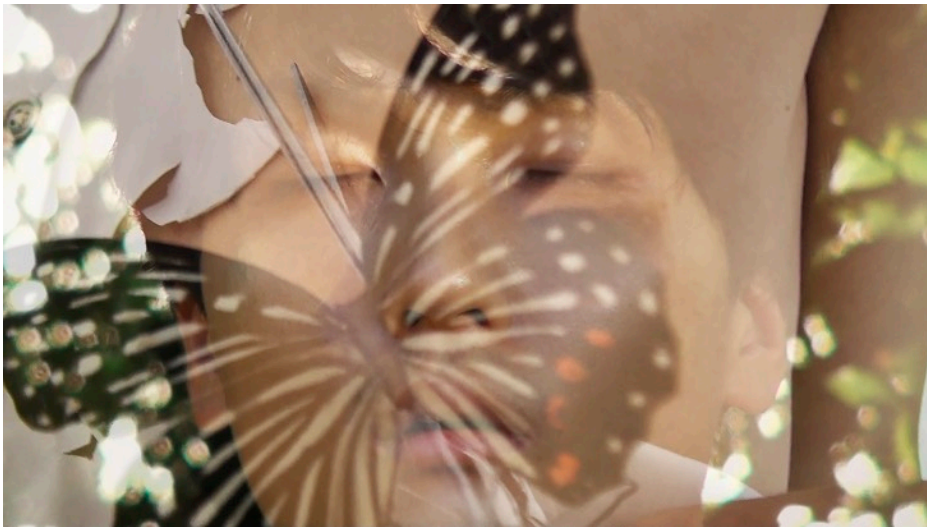
布の裂け目から覗くもの

青年が木陰で昼寝をしていると、夢の中に、蝶とハサミのキメラが現れる。蝶は青年の周りを飛び廻り、羽ばたくと同時にハサミをチョキチョキ動かして、青年の服を切り裂いていく—中国の故事『胡蝶の夢』を思わせる高田冬彦の『The Butterfly Dream』では、オノ・ヨーコのパフォーマンス作品『Cut Piece』が参照されています。集まった観客が、一人ずつ順に作家の着ている衣服をハサミで切り取っていくというこの作品は、パフォーマンス・アート史において「見る/見られる」欲望や、能動/受動の問題を問いかけた最初期の例として、よく知られているものです。

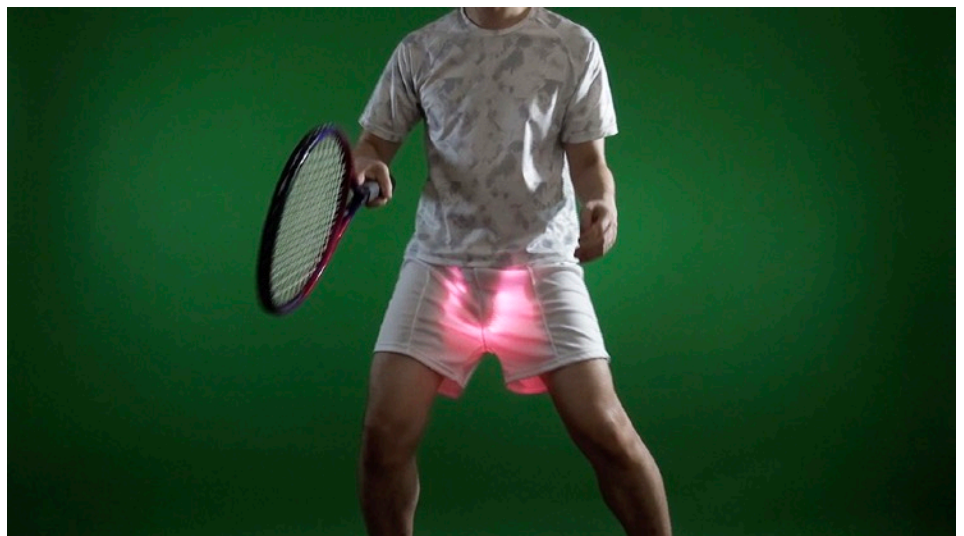
『The Butterfly Dream』で描かれた、男性を被写体とした幻想的な物語は、最新作『Cut Suits』にも引き継がれています。サラリーマン風の格好をした男性たちが、はさみを手に互いのスーツやシャツを楽しげに切り刻む本作は、スーツ姿の男性をエロティックにまなざすと同時に、日本的な「男らしさ」という社会的規範からの解放を示唆しているかのようです。

「私の作品のテーマは、『見る/見られる』に関する問いから始まっている」と高田本人が言うように、快楽と暴力性の両面を持つ「見る/見られる」ことへの欲望は、高田作品の根底にあると言えます。本展で発表される作中にも、「（ハサミで）切る/切られる」といった受動と能動、快楽と暴力性、サディズムとマゾヒズムなど、相反するかのように思われる要素が常に背中合わせに存在しています。高田作品を観るとき、どこもない居心地の悪さを感じつつも、どうしても魅了されてしまう感覚をおぼえるのは、まるで裂けた布の「向こう側」を覗いてしまった時のように、快楽や狂気といった人間の持つ隠された部分に気づくと同時に、それらが自分の中にも確かにあるということに、気づいてしまうからなのかもしれません。

これまでの展示や上映の機会においては、映像作品のみの発表がほとんどであり、絵コンテ的な要素を持つドローイングや、作中に実際に登場するプロップ自体の彫刻的魅力についてはあまり注目されて来ませんでした。本展で高田は、それらの展示に加え、複数台のモニターを使用した彫刻的な表現や、作中のイメージが展示空間まで広がったような映像インスタレーション的表現など、会場を空間的に使用したプレゼンテーションに挑みます。WAITINGROOMでは2回目の開催となる高田冬彦の、作家としても2年ぶりの新作個展にぜひご期待ください。



『The Butterfly Dream』2022年（ビデオスチル）



『Dangling Training』2021年（ビデオスチル）

高田 冬彦 (たかた・ふゆひこ)

1987年 広島県生まれ
 2007 美学校 卒業
 2011 東京造形大学造形学部デザイン学科写真専攻 卒業
 2013 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究領域 修了
 2017 東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻油画研究領域
 博士後期過程 修了
 現在千葉県を拠点に活動中

個展

- 2021 「LOVE PHANTOM 2」 WAITINGROOM (東京)
- 2019 「MAMスクリーン011: 高田冬彦」 森美術館 (東京)
- 2018 「Dream Catcher」 Alternative Space CORE (広島)
- 2017 「LOVE PHANTOM」 Art Center Ongoing (東京)
- 2016 「STORYTELLING」 児玉画廊 (東京)
- 2014 「MY FANTASIA II」 Art Center Ongoing (東京)
- 2013 「MY FANTASIA」 児玉画廊 (京都)
- 2012 「VENUS ANAL TRAP」 Art Center Ongoing (東京)



2022年『NADA Miami 2022』 (Ice Palace Studio、マイアミ、アメリカ) 展示風景
 Photo by Teri Romkey

主なグループ展

- 2023 「マッドスプリング」 Kanda & Oliveira (千葉)
 「無人のアーキ (Study : 大阪国際芸術祭 Exhibition Program)」 グランフロント大阪 うめきたSHIPホール (大阪)
- 2022 「Storymakers in Contemporary Japanese Art」 The Japan Foundation Sydney (シドニー、オーストラリア)
 「異性愛規範を解きほぐすためのエクササイズ、パート2」 UltraSuperNew Gallery (東京)
- 2021 「Lost in Translation」 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA (京都)
 「shelter - Art Collection by HIMEMOTO」 すさきまちかどギャラリー旧三浦邸 (高知)
 「EMAF (ヨーロッパ・メディア・アート・フェスティバル)」 オンライン
 「第13回恵比寿映像祭 地域連携プログラム Emotional Rescue -池田光宏 高田冬彦 ウィスット・ポンニミット」 AL (東京)
- 2020 「When It Waxes and Wanes」 VBKÖ (ウィーン、オーストリア)
- 2019 「不可能な人」 TAV GALLERY (東京)
- 2018 「TERATOTERA祭り2018」 三鷹駅周辺 (東京)
- 2017 「SPRING FEVER」 駒込倉庫 (東京)
- 2016 「MOTアニュアル2016 キセイノセイキ」 東京都現代美術館 (東京)
- 2015 「Super Body Maniac」 児玉画廊 (東京)
 「現在幽霊画展」 TAV GALLERY (東京)
- 2014 「Drawing03 ーpreference」 澁谷画廊 (東京)
- 2013 「Il TENKI group show with Japanese artists」 WILLEM BAARS PROJECT (アムステルダム、オランダ)
 「メント・モリ ～愛と死を見つめて～」 白金アートコンプレックス (東京)
- 2011 「EMERGING / MASTER 1 会田誠 | 美術であろうとなかろうと」 トーキョーワンダーサイト本郷 (東京)
- 2010 「NEO NEW WAVE」 island (千葉)

主な上映

- 2022 「高田冬彦のおとぎ話ビデオアート 上映会+トーク」 神奈川大学 みなとみらいキャンパス (神奈川)
 「1970年～2010年代 日本的〈キャンプ〉の水脈 岡部道男+高田冬彦」 ゲーテ・インスティテュート東京 (東京)
 「Fringe! Queer Film & Arts Fest Presents, Fringe! Shorts: The Wondrous Worlds of Fuyuhiko Takata」 RICH MIX (ロンドン、イギリス)
 「Queer East Film Festival」 Barbican Cinema 2 (ロンドン、イギリス)
- 2018 「Bodyscapes:new film and video from Japan」 Fabrica (ブライトン、イギリス他巡回)
- 2016 「国立奥多摩映画館-森の叫び-」 国立奥多摩映画館 (東京)
- 2011 「TERATOTERA祭り2011 -post-」 吉祥寺バウスシアター (東京)

その他

- 2018 (市原佐都子 (Q) とのコラボレーション演劇作品) 「地底妖精」早稲田小劇場どらま館 (東京)
2017 (市原佐都子 (Q) とのコラボレーション演劇作品) 「地底妖精」SCOOL (東京)
2015 (ダンスと映像のアートプロジェクト/上映/トーク) 「BONUS 第2回 超連結クリエイション 牧神の午後篇」VACANT (東京)

展覧会図録

- 『Storymakers in Contemporary Japanese Art Exhibition Catalogue』The Japan foundation、2022年10月20日
『あなたは自主規制の名のもとに検閲を内面化しますか』ARTIST'S GUILD+NPO法人 芸術公社、2016年5月25日

掲載記事

- Léon Kruijswijk 『BODY POLITICS:ON MASCULINITY Volume1』KING KONG Magazine、pp.70-79
中村志保 「難解?ただ楽しむだけでもいいの?現代アートの映像作品、実はこんなおもしろさも!」『Precious』小学館、2023年1月号、p. 288
Harrison Jacobs 「The Beat Booths at NADA Miami 2022」『ARTnews』Penske Media Corporation、2022年12月1日、<https://www.artnews.com/list/art-news/market/nada-miami-2022-best-booths-1234648715/fuyuhiko-takata-at-waitingroom/>
Rachel Summer Small 「Astroturf and Nostalgia Are on Display at the 20th Edition of NADA Miami」『Cultured Magazine』、2022年12月1日、<https://www.culturedmag.com/article/2022/12/01/nada-art-fair-2022-miami>
山崎潤也 「音楽が聞こえる。山崎潤也評 高田冬彦『LOVE PHANTOM 2』」『web版美術手帖』カルチュア・コンビニエンス・クラブ、2021年12月14日、<https://bijutsutecho.com/magazine/review/24720>
中村志保 「『自分の実存をひっくり返すような、根源的で恐怖と紙一重の“笑い”があると思う』。アーティスト 高田冬彦インタビュー」『TOKYO ART BEAT』株式会社アートビート、2021年11月27日、https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/fuyuhiko_takata_interview
荒井保洋 「『翻訳』の不可能性が導く先に。荒井保洋評『Lost in Translation』展」『web版美術手帖』カルチュア・コンビニエンス・クラブ、2021年10月21日、<https://bijutsutecho.com/magazine/review/24693>
田口美和・深野一朗 「理想の滑稽さを求めてテイク40。高田冬彦のストレートな性的表現に潜む不完全性への愛」『MUUSEO SQUARE』ミュージゼオ株式会社、2020年4月8日、<https://muuseo.com/square/articles/1315>
宮津大輔 「性にフォーカスしたスラップスティック的表現に潜む、時代に対する鋭い批評精神」『月刊アートコレクターズ』生活の友社、2019年11月 (No.128)
島貫泰介 (聞き手・文) 「高田冬彦×市原佐都子 自意識と葛藤のめんどくささを超えて」『美術手帖』美術出版社、2018年10月号増刊、p. 76
住吉智恵 「セルフイーが暴きだす『うしろめたさと胸騒ぎ』」『月刊アートコレクターズ』生活の友社、2018年4月 (No.109)、p. 28
Andrew Maerkle 「REVIEWS: Tokyo — Fuyuhiko Takata KODAMA GALLERY」『ARTFORUM』Artforum Inc.、2016年9月号、p. 385 / <https://www.artforum.com/print/reviews/201607/fuyuhiko-takata-63058>
「特集 僕の好きなアート」『POPEYE』マガジンハウス、2016年12月 (No.836)、p. 107
福住廉 「アナーキズムの肉体」『美術手帖』美術出版社、2016年7月 (No.1038)、p. 176
杉原環樹 (構成) 「SPECIAL FEATURE 『MOTアニュアル2016 キセイノセイキ』展 企画者と参加作家が語る、アートと自主規制」『美術手帖』美術出版社、2016年6月 (No.1037)、p. 107
「新世代作家キュレーション対決!! 卯城竜太 (Chim↑Pom) ×黒瀬陽平 (カオス*ラウンジ)」『美術手帖』美術出版社、2015年5月 (No.1021)、p. 35
「(別冊) ART NAVI 六畳間から生まれるビジョン」、『美術手帖』美術出版社、2014年1月 (No. 998)、p. 9

パブリックコレクション

- HBC Global Art Collection
高橋龍太郎コレクション
タグチ・アートコレクション
ピゴッチ・コレクション
S-HOUSEミュージアム

アーティストウェブサイト

<http://fuyuhikotakata.com>

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

WAITINGROOM (代表: 芦川朋子)

住所: 〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F

営業時間: 水木金土 12-19時・日 12-17時

定休日: 月火祝

Tel : 03-6304-1877 Eメール : info@waitingroom.jp

Web : <http://waitingroom.jp>